# 取扱説明書

audio-technica

ラックマウントワイヤレスシステム

# ATW-1301, ATW-1302, ATW-1311, ATW-1312, ATW-1322

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

## 特長

- **安定した運用を可能にする3つのダイバーシティを搭載。**
- **リアルタイム双方向通信で干渉周波数を自動回避。**
- **最大10台の同時使用が可能。**
- **使用周波数をコーディネートするリンク接続で多チャンネル運用時の安定性を確保。**
- **本体から取り外し可能なレシーバーユニット(ATW-RU13)で幅広い用途に対応。**
- **トランスミッターの受信レベルと電池残量などを一目で確認できる前面LCD搭載。**

## 目次

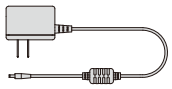

安全上の注意・・・・・・・・・・・・・3～4ページ
使用上の注意・・・・・・・・・・・・・・5ページ
各部の名称と機能・・・・・・・・・・ 6～8ページ
電池の入れかた・・・・・・・・・・・・・・9ページ
接続のしかた・・・・・・・・・・・・10～11ページ
レシーバー本体の設置のしかた・・・ 12～13ページ
レシーバーユニットの設置のしかた・ 13～14ページ
使いかた・・・・・・・・・・・・・・15～18ページ
マルチペアリング機能・・・・・・・・・・19ページ
本システムを上手に運用するための10ポイント・・・ 20ページ
外形寸法図・・・・・・・・・・・・・・・ 20ページ
故障かな？と思ったら・・・・・・・21～22ページ
MEMO・・・・・・・・・・・・・・・・・23ページ
テクニカルデータ・・・・・・・・・・・・ 裏表紙


## 内容物を確認する

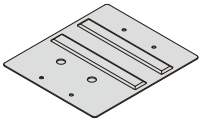
本製品をご使用になる前に、下記内容物がすべてそろっていることを確認してください。万一、内容物に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口までご連絡ください。

### ATW-1301

●レシーバー本体 (ATW-RC13)×1



●ACアダプター×1



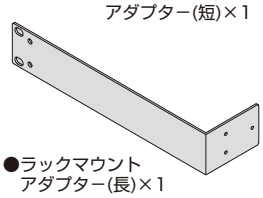
●ジョイントプレート×1

●ラックマウントアダプター(短)×1

●リンク用ケーブル×1

●ゴム足×4

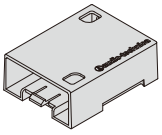
●固定用ネジ×10



●ラックマウントアダプター(長)×1

●レシーバーユニット(ATW-RU13)×1

●アンテナ×2



●ユニットホルダー(AT8690)×1

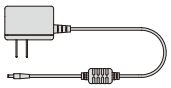
●木ネジ×2

●2ピースタイプトランスミッター(ATW-T1001J)×1

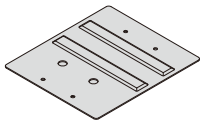
●保証書
●取扱説明書(本書)

## ATW-1302

●レシーバー本体 (ATW-RC13)×1



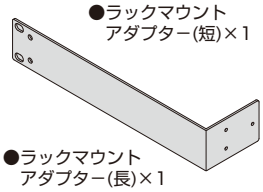
●ACアダプター×1



●ジョイントプレート×1

●ラックマウント
アダプター(短)×1

●リンク用ケーブル×1



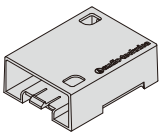
●ラックマウント
アダプター(長)×1

●ゴム足×4

●固定用ネジ×10

●レシーバーユニット
(ATW-RU13)×1

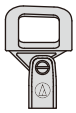
●アンテナ×2



●ユニットホルダー
(AT8690)×1

●木ネジ×2

●マイクロホンタイプ
トランスミッター
(ATW-T1002J)×1



●マイクホルダー
(AT8456a)×1

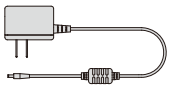
●変換ネジ
(3/8−5/8)×1

●保証書

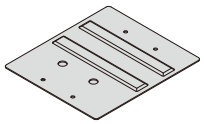
●取扱説明書(本書)

## ATW-1311

●レシーバー本体 (ATW-RC13)×1



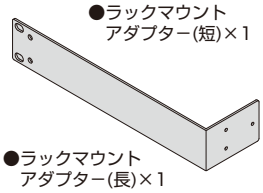
●ACアダプター×1



●ジョイントプレート×1

●ラックマウント
アダプター(短)×1

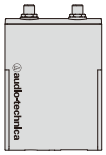
●リンク用ケーブル×1



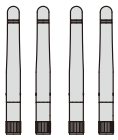
●ラックマウント
アダプター(長)×1

●ゴム足×4

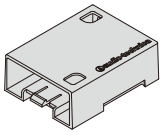
●固定用ネジ×10



●レシーバーユニット
(ATW-RU13)×2



●アンテナ×4



●ユニットホルダー
(AT8690)×2

●木ネジ×4

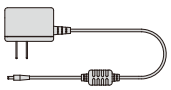
●2ピースタイプ
トランスミッター
(ATW-T1001J)×2

●保証書

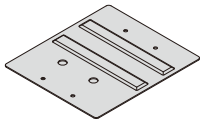
●取扱説明書(本書)

## ATW-1312

●レシーバー本体 (ATW-RC13)×1



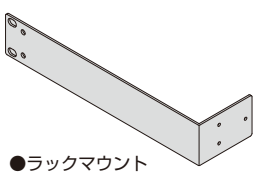
●ACアダプター×1



●ジョイントプレート×1

●ラックマウント
アダプター(短)×1

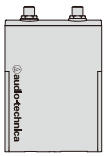
●リンク用ケーブル×1



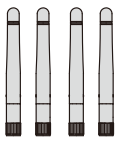
●ラックマウント
アダプター(長)×1

●ゴム足×4

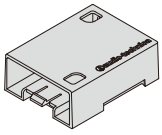
●固定用ネジ×10



●レシーバーユニット
(ATW-RU13)×2



●アンテナ×4

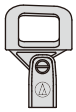


●ユニットホルダー
(AT8690)×2

●木ネジ×4

●2ピースタイプ
トランスミッター
(ATW-T1001J)×1

●マイクロホンタイプ
トランスミッター
(ATW-T1002J)×1



●マイクホルダー
(AT8456a)×1

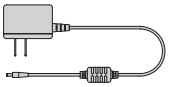
●変換ネジ
(3/8−5/8)×1

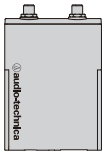
●保証書

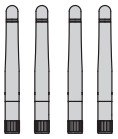
●取扱説明書(本書)

## ATW-1322

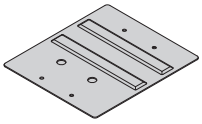
●レシーバー本体 (ATW-RC13)×1


●ACアダプター ×1

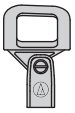

●レシーバーユニット
(ATW-RU13)×2


●アンテナ×4

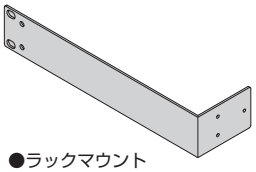
●マイクロホンタイプ
トランスミッター
(ATW-T1002J)×2

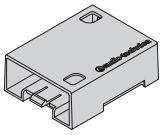

●ジョイントプレート×1

●ラックマウント
アダプター(短)×1


●マイクホルダー
(AT8456a)×2

●リンク用ケーブル×1


●ラックマウント
アダプター(長)×1


●ユニットホルダー
(AT8690)×2

●木ネジ×4

●変換ネジ
(3/8−5/8)×2

●ゴム足×4

●固定用ネジ×10

●保証書

●取扱説明書(本書)

## 安全上の注意

**本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。**
**事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。**

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。 |
| ⚠警告 | この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。 |
| ⚠注意 | この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。 |

### 本体について

#### ⚠警告

**●心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以内の場所では使用しない**
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。
**●本製品を医療機器の近くで使用しない**
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。
医療機関の屋内では使用しないでください。
**●指定の AC アダプター以外は使用しない**
事故や火災の原因になります。
**●異常に気付いたら使用しない**
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、すぐに使用を中止して、
お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
**●分解や改造はしない**
感電、故障や火災の原因になります。
**●強い衝撃を与えない**
感電、故障や火災の原因になります。
**●濡れた手で触れない**
感電やけがの原因になります。
**●水をかけない**
感電、故障や火災の原因になります。
**●本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない**
感電、故障や火災の原因になります。
**●布で覆わない**
過熱による火災やけがの原因になります。
**●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない**
事故や火災の原因になります。

#### ⚠注意

**●不安定な場所に設置しない**
転倒などによりけがや故障の原因になります。
**●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない**
故障、不具合の原因になります。
**●火気に近づけない**
変形、故障の原因になります。
**●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない**
変形、故障の原因になります。

## ACアダプターについて

### ⚠警告

**●AC100V以外の電源には使用しない(日本国内専用)**
過熱による火災など事故の原因になります。
**●本製品以外には使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
**●異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜き
お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
**●コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない**
過熱による火災など事故の原因になります。
**●コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**
過熱による火災など事故の原因になります。
**●コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**
断線、故障の原因になります。
**●コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**
断線、故障の原因になります。
**●分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
**●強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
**●濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
**●布などで覆わない**
過熱による火災など事故の原因になります。
**●プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**
過熱による火災など事故の原因になります。
**●ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない**
変形、故障の原因になります。

### ⚠注意

**●長時間使用しないときは、コンセントから抜く**
省エネルギーにご配慮ください。
**●足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない**
故障や事故の原因になります。
**●通電中のACアダプターに長時間触れない**
低温やけどの原因になることがあります。

## 電池について

| 指定電池 | 単３形アルカリ乾電池（別売） |
|---|---|

※指定電池以外は使用しないでください。

### ⚠危険

**●電池の液が目に入ったときは目をこすらない**
すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。
**●電池の液が漏れたときは素手で液を触らない**
■液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを
起こした場合は、当社サービスセンターまでご相談ください。
■万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、
医師の診察を受けてください。
■皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。
皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

### ⚠警告

**●火の中に入れない、加熱、分解、改造しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない**
発熱、破損、発火の原因になります。
**●幼児の手の届く所に置かない**
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓
への障害の恐れがあります。
**●電池は (+)(−) を逆に入れない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の (+)(−) を接続しない**
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●乾電池は充電しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●使い切った電池はすぐに取り出す**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●長期間使用しない場合は電池を取り出す**
液漏れによる故障の原因になります。

### ⚠注意

**●落下させたり強い衝撃を与えない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●以下の場所で使用、放置、保管しない**
■直射日光の当たる場所、高温多湿の場所 ■炎天下の車内
■ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
**●水に濡らさない**
発熱、破裂、発火の原因になります。
**●外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない**
ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●変形させたりハンダ付けしない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●機器を使用したあとは必ずスイッチを切る**
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。
**●指定の電池以外使用しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
**●使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する**
環境保全に配慮してください。

# 使用上の注意

## 本体について

●ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
●本製品の近くに発信機（携帯電話など）があるとノイズが入る場合がありますので離してご使用ください。
●汚れたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

## ワイヤレス機器について

本製品は 2.4GHz の周波数帯域を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、
下記事項をお読みのうえ、ご使用ください。

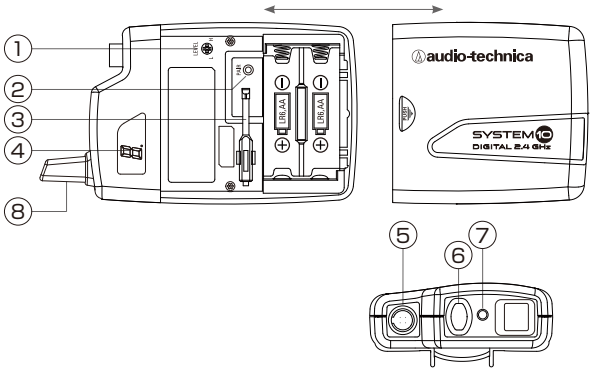
本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家庭用電気機器・IT・産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許が必要）、特定小電力無線局（免許が不要）、およびアマチュア無線局（免許が必要）が運用されています。

1. ご使用の前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかにトランスミッターの電源を切ってください。そのうえでお客様相談窓口（→裏表紙）にご連絡いただき、混信回避のための処置（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合や、ご不明な点がございましたら、当社お客様相談窓口（→裏表紙）までお問い合わせください。

●本製品は日本国内でのみご使用いただけます。
●本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として工事設計認証を受けております。
無線局の免許は必要ありません。
●以下の行為は、法律で禁じられています。
　－　分解や改造を行う。
　－　本体に貼付の工事設計認証ラベル（㊣マークを含むラベル）をはがす。
●本体の表示について
2.4XX8　この無線機が 2.4GHz 帯を使用し、変調方式はその他の方式、与干渉距離が 80m 以内、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能を表わします。
●使用可能範囲
トランスミッターから約 60m の範囲でご使用いただけますが、トランスミッターとレシーバーユニットの間に障害物がある場合や建物の構造などによっては使用可能な距離が短くなる場合があります。
●ほかの機器との影響
*Bluetooth* 搭載機器、無線 LAN・Wi-Fi を使用する機器、デジタルコードレス電話、電子レンジなど、本製品と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用する機器の影響によって音声が途切れることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、干渉し合う機器同士は離して設置してください。

# 各部の名称と機能

## 2ピースタイプトランスミッター　ATW-T1001J




### ① AF レベルボリュームノブ

音声の入力レベルを調整します。
※出荷時の設定は最大です。

### ② ペアリングボタン

ペアリングを行うときに使用します。

### ③ ミニドライバー

AF レベルボリュームノブを調整するときに使用します。
※紛失しないようご注意ください。

### ④ システム ID 表示部

現在設定されているシステム ID を表示します。

### ⑤ 入力コネクター

当社のギターケーブルやヘッドウォーンマイク、
またはラベリアマイクなどを接続します。

### ⑥ 電源／ミュートボタン

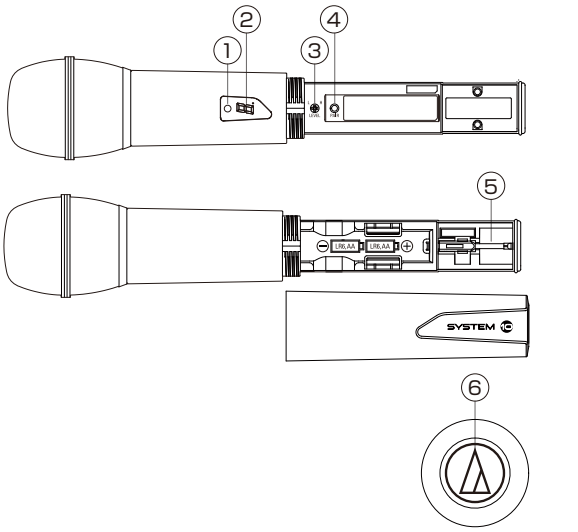
長押しで電源を ON ／ OFF、
短押しでミュートを ON ／ OFF します。

### ⑦ 電源／ミュートインジケーター

電源 ON 時に緑色に点灯、
ミュート ON 時に赤色に点灯します。

### ⑧ アンテナ

## マイクロホンタイプトランスミッター　ATW-T1002J




### ① 電源／ミュートインジケーター

電源 ON 時に緑色に点灯、
ミュート ON 時に赤色に点灯します。

### ② システム ID 表示部

設定されているシステム ID を表示します。

### ③ AF レベルボリュームノブ

音声の入力レベルを調整します。
※出荷時の設定は最大です。

### ④ ペアリングボタン

ペアリングを行うときに使用します。

### ⑤ ミニドライバー

AF レベルボリュームノブを調整するときに使用します。
※紛失しないようご注意ください。

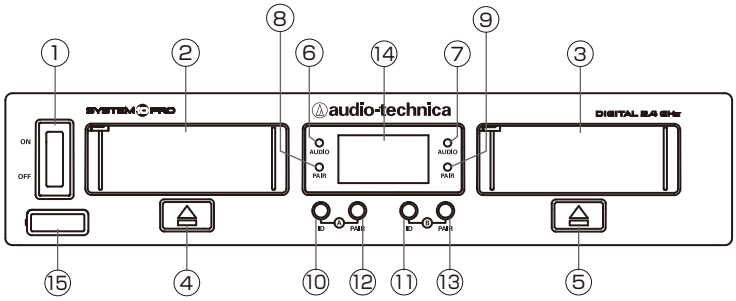
### ⑥ 電源／ミュートボタン

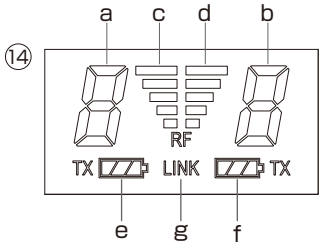
長押しで電源を ON ／ OFF、
短押しでミュートを ON ／ OFF します。

※各部の機能に関して、詳細は 15、16、17、18 ページ「使いかた」をご覧ください。

# 各部の名称と機能

## レシーバー本体　ATW-RC13（正面）




### ① 電源スイッチ

電源を ON ／ OFF します。

### ② Ach レシーバーユニットスロット

### ③ Bch レシーバーユニットスロット

レシーバーユニット内部接続用スロットです。

### ④ Ach イジェクトボタン

### ⑤ Bch イジェクトボタン

レシーバーユニットを取り出すときに使用します。

### ⑥ Ach オーディオインジケーター

### ⑦ Bch オーディオインジケーター

音声入力が大きくなると色が、緑→オレンジ→赤と変化します。
※赤になると音が歪みますので、トランスミッターの入力レベルを調整してください。

### ⑧ Ach 受信インジケーター

### ⑨ Bch 受信インジケーター

トランスミッターと通信中は緑色に点灯します。
また、ペアリング中は緑色に点滅します。

### ⑩ Ach システム ID 切換ボタン

### ⑪ Bch システム ID 切換ボタン

システム ID を切り換えます。ボタンを押すと
0 ～ 9 まで順方向にシステム ID が切り換わります。
※出荷時の設定は Ach が 1、Bch が 2 です。

### ⑫ Ach ペアリングボタン

### ⑬ Bch ペアリングボタン

ペアリングを行うときに使用します。

### ⑭ LCD 表示部

**a**：Ach システム ID 表示部
**b**：Bch システム ID 表示部
　現在設定されているシステム ID を表示します。
**c**：Ach RF シグナルレベルインジケーター
**d**：Bch RF シグナルレベルインジケーター
　トランスミッターからの RF 信号の強さを表示します。
**e**：Ach トランスミッターバッテリーインジケーター
**f**：Bch トランスミッターバッテリーインジケーター
　トランスミッターのバッテリー残量を表示します。

:100～60%　:60～30%
:30～10%　:10% 以下（点滅）

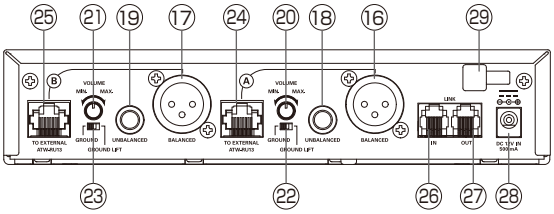
※単 3 形アルカリ乾電池使用時
※トランスミッターと通信時に点灯します。
**g**：リンク表示部
　リンク接続が確立すると表示します。
　詳細は 11 ページ参照

### ⑮ サービスポート

ファームウェアのアップデート、メンテナンスに使用します。
※お客様はご使用になれません。

# 各部の名称と機能

## レシーバー本体　ATW-RC13（背面）




**⑯ Ach AF バランス出力端子 (XLR 3 ピンオス )**
**⑰ Bch AF バランス出力端子 (XLR 3 ピンオス )**
音声のバランス出力端子です。

**⑱ Ach アンバランス出力端子**
**（φ6.3mm モノラルジャック )**
**⑲ Bch アンバランス出力端子**
**（φ6.3mm モノラルジャック )**
音声のアンバランス出力端子です。

**⑳ Ach AF レベルボリュームノブ**
**㉑ Bch AF レベルボリュームノブ**
音声の出力レベルを調整します。
本ボリュームは⑯、⑰、⑱、⑲ともに有効です。

**㉒ Ach グランドリフトスイッチ**
**㉓ Bch グランドリフトスイッチ**
バランス出力の GND ピンをグランドから切り離します。
通常は「GROUND」で使用しますが、グランドループによるノイズが出る場合はスイッチを「GROUND LIFT」側に切り換えてGNDピンをグランドから切り離してください。

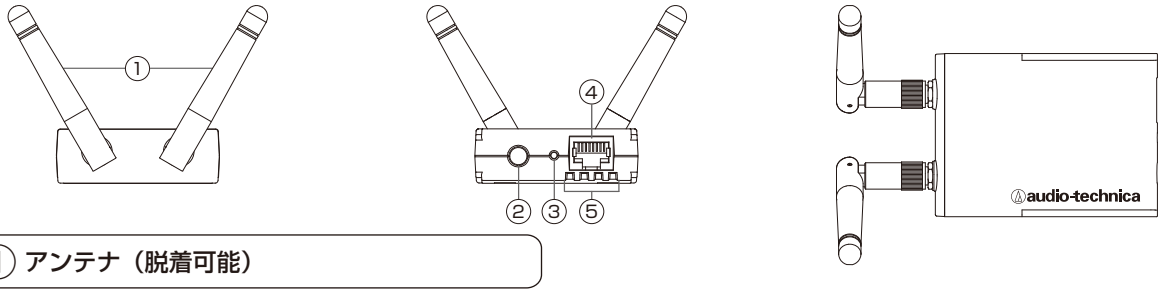
**㉔ Ach レシーバーユニット外部接続端子**
**㉕ Bch レシーバーユニット外部接続端子**
レシーバーユニット外部接続用の端子です。

**㉖ リンク IN 端子**
**㉗ リンク OUT 端子**
リンク用の接続端子です。

**㉘ DC 入力端子 (DC 12V)**
付属の AC アダプターを接続します。
※AC100V 50/60Hz の電源に接続してください。

**㉙ AC アダプターコードフック**
AC アダプターの電源コードを引っ掛けます。
コードが引っ張られても容易に抜けなくなります。

## レシーバーユニット　ATW-RU13




**① アンテナ（脱着可能）**

**② カメラネジ（1/4 インチネジ）**
外部設置時に使用します。

**③ 電源インジケーター**
外部設置時に点灯します。
・電源 ON 時　：点滅
・ペアリング中：急速点滅
・通信中　　：点灯

**④ 外部接続コネクター**
外部設置するときにレシーバー本体からのケーブルを接続します。

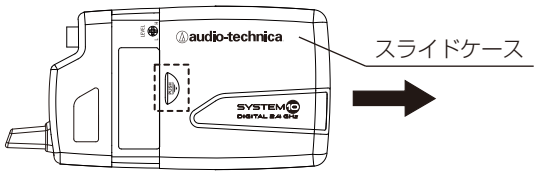
**⑤ 内部接続端子**
スロットインの場合にレシーバー本体と接続されます。

# 電池の入れかた

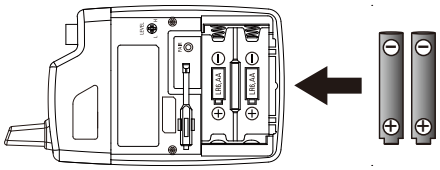
## 2ピースタイプトランスミッター　ATW-T1001J

①電源が OFF になっていることを確認します。

②スライドケースの「PUSH」表示部を押しながら図の矢印方向にスライドさせ外します。




③別売の単３形アルカリ乾電池×2 本を表示の向きに合わせて入れます。

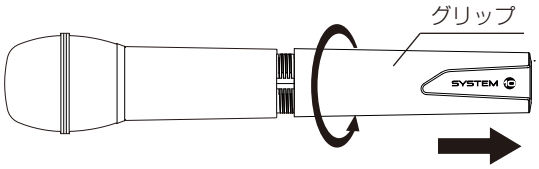


④スライドケースを本体に合わせ、図の矢印方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせて取り付けます。

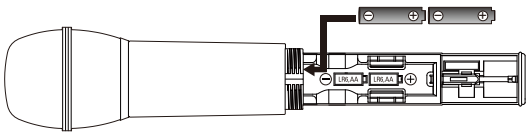
## マイクロホンタイプトランスミッター　ATW-T1002J

①電源が OFF になっていることを確認します。

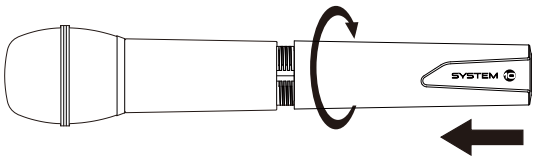
②グリップを反時計方向に回し外します。




③別売の単３形アルカリ乾電池×２本を表示の向きに合わせて㊀側から入れます。




④グリップを本体にはめ込み、時計方向に回します。



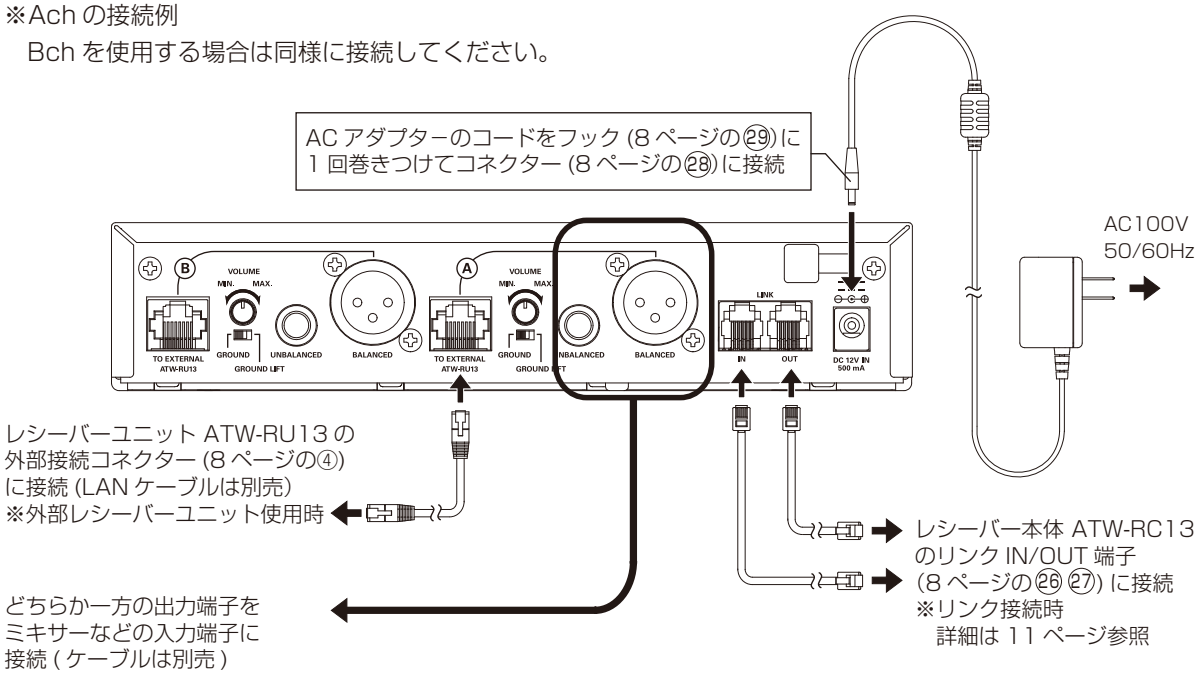
# 接続のしかた

※接続する機器の取扱説明書を併せてお読みください。

接続の前に接続機器の音量ボリュームを最小にし、電源は「切」状態にしてから接続してください。

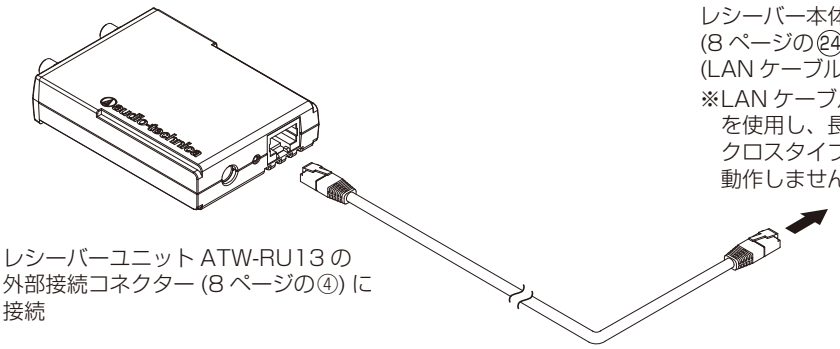
## レシーバー本体　ATW-RC13 の接続のしかた

※Ach の接続例
　Bch を使用する場合は同様に接続してください。




## レシーバーユニット　ATW-RU13 の接続のしかた（外部設置の場合 ）

レシーバーユニットをスロットイン (13 ページ参照 ) で使用した場合、使用状況によってはアンテナが隠れてしまうことがあります。その場合、レシーバーユニットをレシーバー本体から取り外して使用することができます。この場合下図のように接続してください。

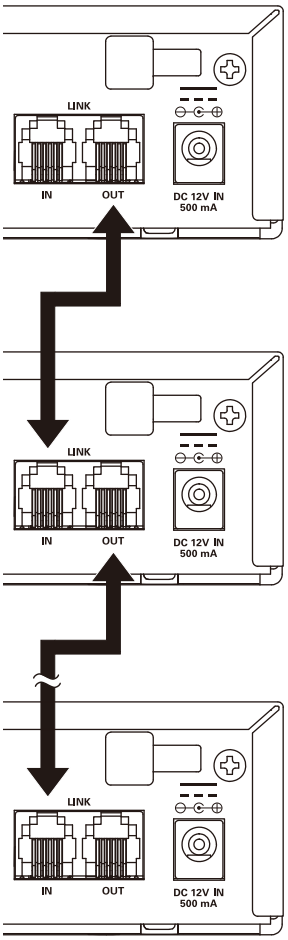



※ユニットホルダーを使用する場合は、ユニットホルダーに装着してから LAN ケーブルを接続してください。
（ユニットホルダーの接続のしかたは 14 ページ参照）
※レシーバーユニットを外部設置しているときに、別のレシーバーユニットをスロットイン (13 ページ参照 ) で使用した場合、スロットインした方のレシーバーユニットが優先されます。

# 接続のしかた

## リンク接続のしかた

本製品を複数のシステムで同時に使用する場合、リンク接続することをおすすめします。
リンク接続すると通信の信頼性が向上し、音切れしにくくなります。
また、ほかの 2.4GHz の周波数帯を使用する機器に与える干渉の影響が低減します。
リンク接続する場合は下図のように接続してください。




マスターレシーバー

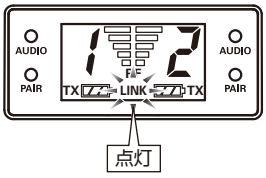
接続するすべてのレシーバー本体の電源を OFF にしてください。
マスターとする 1 台のレシーバー本体のリンク OUT 端子に付属の専用リンク用ケーブルを接続します。
※マスターレシーバーのリンク IN 端子には何も接続しないでください。
リンク IN 端子に何も接続しないレシーバー本体がマスターレシーバーとして動作します。

スレーブレシーバー

2 台目のレシーバー本体のリンク IN 端子に、マスターと接続されているリンクケーブルを接続します。
3 台目以降を接続する場合も同様にリンク OUT 端子とリンク IN 端子を接続します。
※マスターレシーバー以外のレシーバーはスレーブレシーバーとして動作します。

スレーブレシーバー
(最大4台、計5台まで)

スレーブは最大 4 台 ( マスターと合わせて 5 台 ) まで接続でき、トランスミッターは最大 10 台まで使用できます。
※最後のスレーブレシーバーのリンク OUT 端子には何も接続しないでください。
※接続完了後すべてのレシーバー本体の電源を ON にしてください。なるべく同時に ON にするとリンク接続が確立しやすくなります。

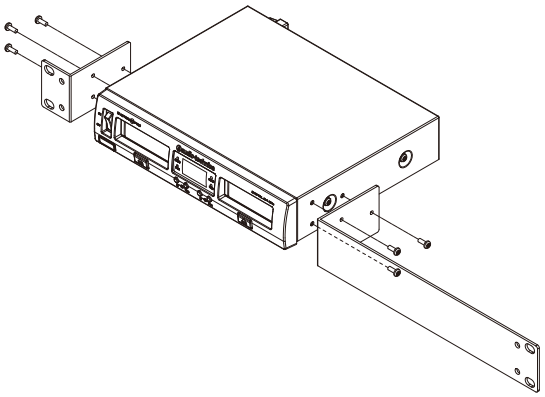


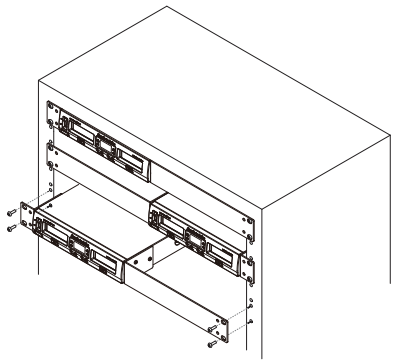

リンク接続が確立するとレシーバー本体の LCD 表示部のリンク表示部が点灯します。リンク表示部が点灯しない場合はリンク接続が確立していません。
その場合は再度、接続状態をご確認ください。

# レシーバー本体の設置のしかた

## ラックマウントの場合 ( シングル)

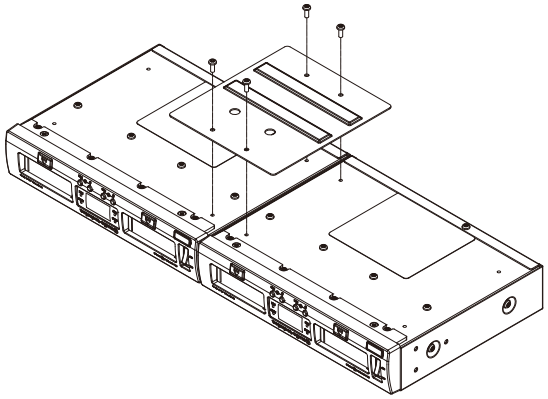
付属のラックマウントアダプター(長･短各1個)を図の向きにセットし、付属の固定用ネジで各3カ所、レシーバー本体に固定します。※ラックマウントアダプター(長･短)は左右どちら側でも固定できます。



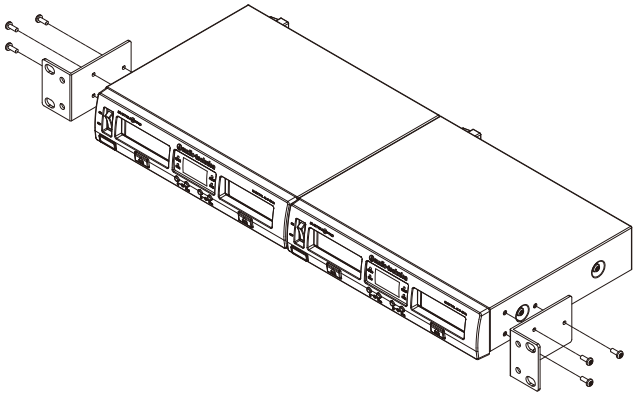


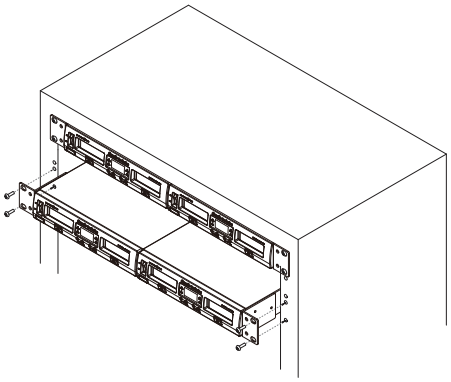
## ラックマウントの場合 ( デュアル)

レシーバー本体は付属のジョイントプレートを図の向きにセットし、付属の固定用ネジで４カ所固定します。



付属のラックマウントアダプター(短)2個を図の向きにセットし､付属の固定用ネジで各3カ所､レシーバー本体に固定します。
※ラックマウントアダプター(短)は1セットに1個付属されています。
　デュアルで設置する場合は2セット分のラックマウントアダプター(短)を使用してください。



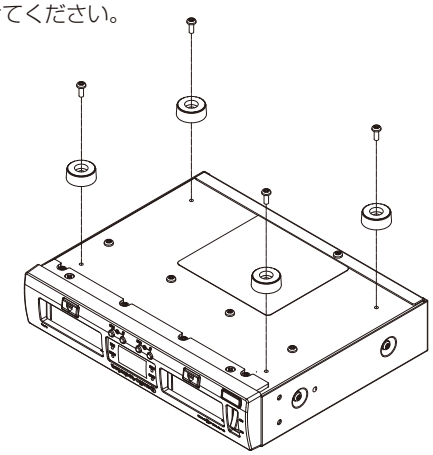


※ゴム足は取り付けないでください。　　※ラックへの取り付けネジは付属していません。
※ラックの内部に熱がこもらないよう換気に配慮してください。

# レシーバー本体の設置のしかた

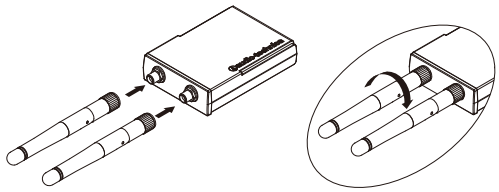
## 直置きの場合

レシーバー本体をラック等に直接置いて使用する場合は、付属のゴム足を取り付けて使用してください。
付属のゴム足を固定用ネジでレシーバー本体の底面に取り付けてください。
※ネジは４本しっかり取り付けてください。

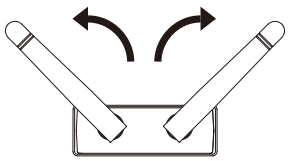


# レシーバーユニットの設置のしかた

①アンテナをセットし時計方向に回し、取り付けます。

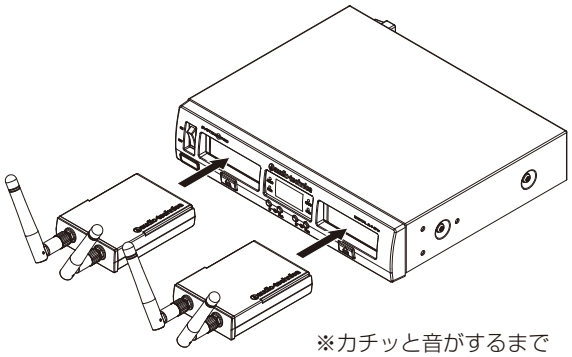


②レシーバーのアンテナを立てます。
安定した運用のため、V 字型にしてください。



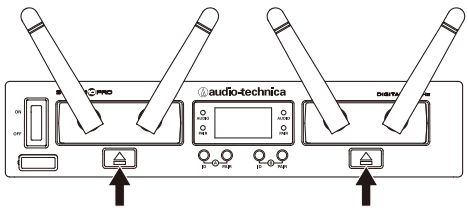
## スロットインの場合

使用するチャンネルのレシーバーユニットスロットに
レシーバーユニットを挿入します。



※カチッと音がするまで
挿入してください。

レシーバーユニットを取り外す場合は、イジェクト
ボタンを押して、レシーバーユニットを引き抜いて
ください。




※レシーバーユニットをレシーバーユニットスロットに
挿入したり、取り外したりする場合は、レシーバー本体
の電源をOFFにしてください。

# レシーバーユニットの設置のしかた

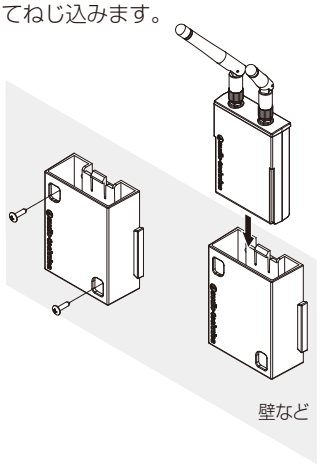
## 外部設置の場合

### ユニットホルダーを使用

ユニットホルダーを使用して設置する場合、2 通りの方法があります。

**【ユニットホルダーを定位置に固定する場合】**

設置したい場所にユニットホルダーを配置し、正面の 2 つの穴からドライバーを入れ、付属の木ネジを使用してねじ込みます。

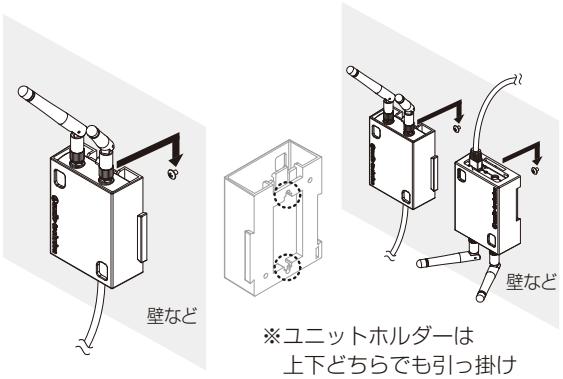



固定したユニットホルダーにレシーバーユニットを挿入します。

※カチッと音がするまで挿入してください。

**【ユニットホルダーを付け外しする場合】**

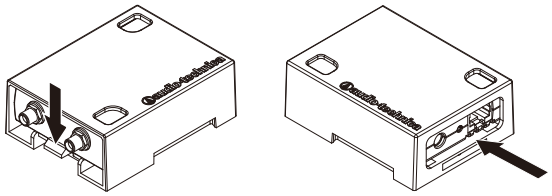
付属の木ネジを設置する場所に半締めし、予めレシーバーユニットを挿入したユニットホルダーを木ネジに引っ掛けます。




※ユニットホルダーは上下どちらでも引っ掛けることができます。

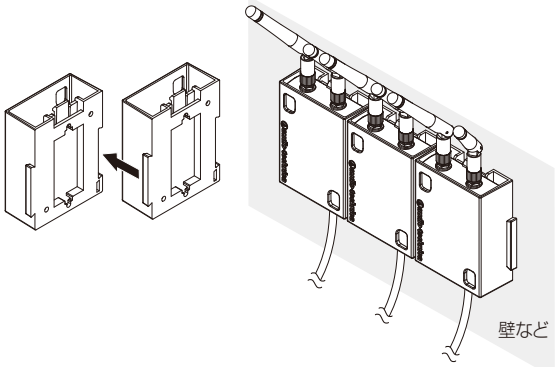
**【レシーバーユニットの取り外しかた】**

レシーバーユニットをユニットホルダーから取り外す場合は、正面のツメを押しながら、背面の穴から指で押して外してください。



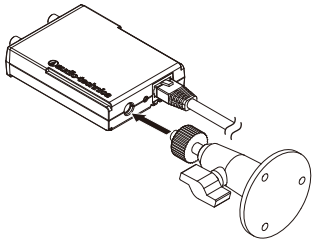
**【ユニットホルダーの連結のしかた】**

ユニットホルダーは、背面の溝と突起を合わせることで複数連結して設置することができます。

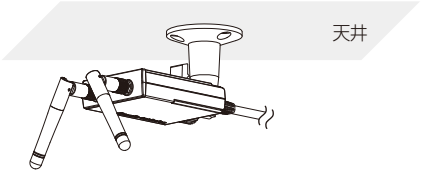



### カメラネジ（1/4 インチネジ）を使用

カメラネジ（1/4 インチネジ）のアングル ( 別売 ) を使用して設置する場合、図の矢印の位置に取り付けてください。



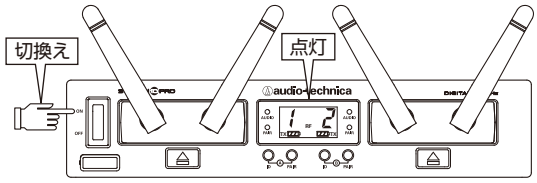
**【設置例】**



# 使いかた

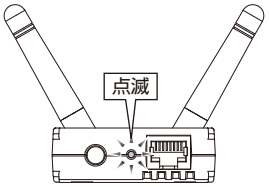
## レシーバーを準備する

レシーバー本体の電源スイッチを ON 側に切り換えます。




LCD 表示部が点灯します。

レシーバーユニットを外部設置している場合は、レシーバーユニット背面の電源インジケーターが緑色に点滅します。

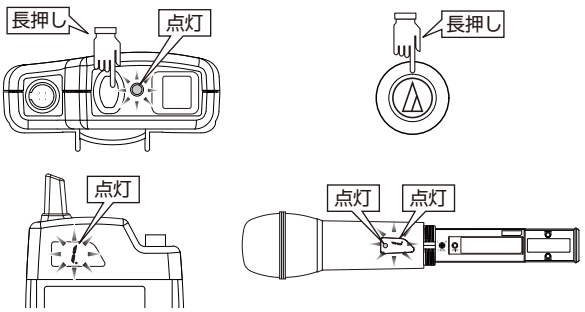



## トランスミッターを準備する

### Ach を使用する場合

①トランスミッターの電源／ミュートボタンを長押しし、電源を ON します。

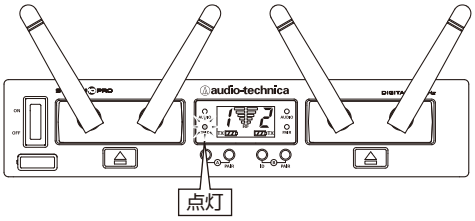
【ATW-T1001J の場合】　【ATW-T1002J の場合】



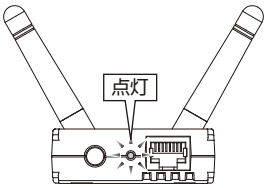

電源／ミュートインジケーターが緑色に点灯します。
システム ID 表示部に ID が青色に点灯します。

## トランスミッターを準備する（つづき）

②レシーバー本体の受信インジケーターが緑色に点灯し、RF シグナルインジケーターと電池残量が表示されます。



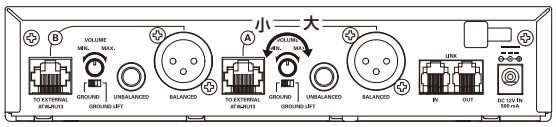

レシーバーユニットを外部設置している場合は、レシーバーユニット背面の電源インジケーターが緑色に点灯します。




## 音声の入出力レベルを調整する

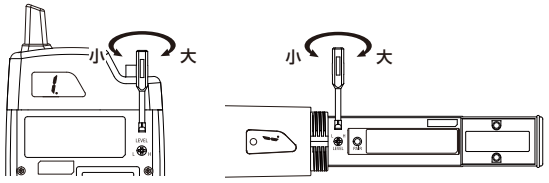
①レシーバー本体背面の AF レベルボリュームノブで音声の出力レベルを調整します。

接続する外部機器と合わせて最適な出力レベルに設定してください。




②必要に応じて、トランスミッターの AF レベルボリュームノブで音声の入力レベルを調整します。

【ATW-T1001J の場合】　【ATW-T1002J の場合】




※操作の際は必ずトランスミッターに付属しているミニドライバーを使用してください。

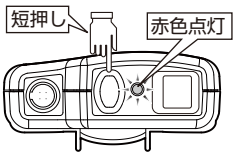
### Bch を使用する場合

Ach 同様に「トランスミッターを準備する」から設定してください。

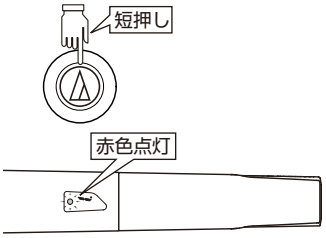
# 使いかた

## ミュート ( 消音 ) のしかた

【ATW-T1001J の場合】




【ATW-T1002J の場合】




①電源／ミュートボタンを短押しするとミュート状態になります。
電源／ミュートインジケーターが赤色点灯に変わります。

②再度、電源／ミュートボタンを短押しするとミュートが解除されます。
電源／ミュートインジケーターが緑色点灯に変わります。

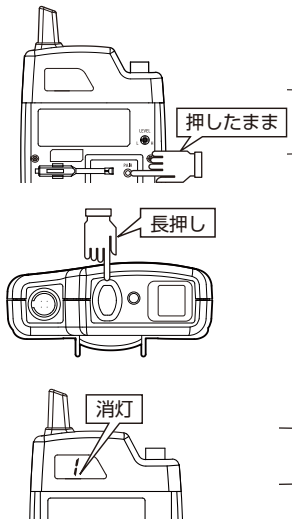
## ミュートロックモード

ミュート操作を無効にすることができます。

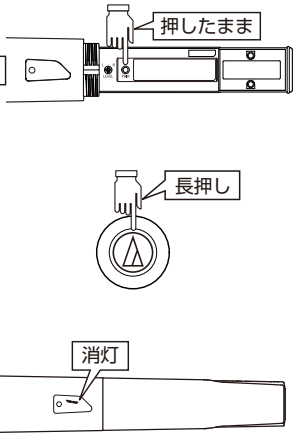
**設定のしかた**

トランスミッターのペアリングボタンを押したまま、電源／ミュートボタンを長押しし電源を ON します。

【ATW-T1001J の場合】




【ATW-T1002J の場合】



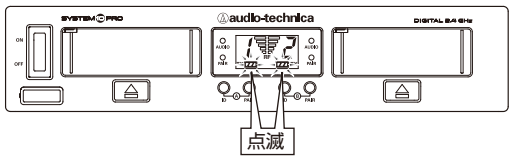

ミュートロックモード時はシステム ID 表示部 ID 横の「.」( ドット ) が消灯します。

**解除のしかた**

再度、トランスミッターのペアリングボタンを押したまま電源を ON します。
システム ID 表示部 ID 横に「.」( ドット ) が点灯します。

## トランスミッターの電池交換時期について

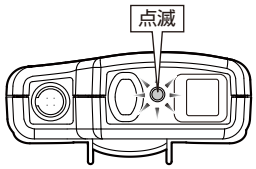
通信中にトランスミッターの電池残量が少なくなると、レシーバー本体の各トランスミッターバッテリーインジケーターが点滅します。



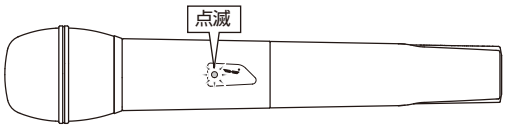

※バッテリー残量に関して、詳細は 7 ページ「各部の名称と機能」をご覧ください。

トランスミッターの電源／ミュートインジケーターが点灯から点滅に変わります。
通常使用時は緑色に点滅、ミュート時は赤色に点滅します。
その際は新しい電池に交換してください。

【ATW-T1001J の場合】




【ATW-T1002J の場合】

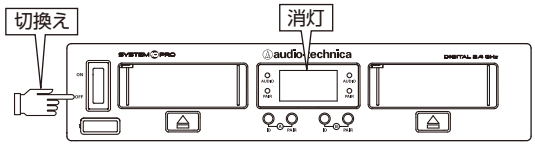


# 使いかた

## 電源の切りかた

レシーバー本体の電源スイッチをOFF側に切り換えます。

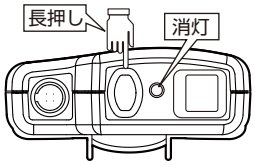
【ATW-RC13 の場合】



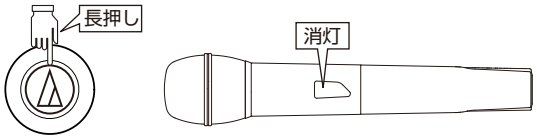

各インジケーターと LCD 表示部が消灯します。
※使用後は必ず電源を切ってください。

電源／ミュートボタンを長押しし、電源を OFF にします。

【ATW-T1001J の場合】




【ATW-T1002J の場合】




電源／ミュートインジケーターが消灯します。

## 複数のシステムで使用するには

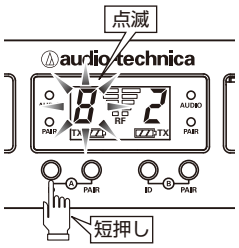
複数のシステムを同時にご使用の際は、各々異なったシステム ID に設定してください。
（同じ ID のシステムが運用範囲内に複数存在しても、混信することはありません。

※レシーバーユニット1台につき、1台のトランスミッターのみ使用可能です。
※本システムは最大10 台の同時使用が可能です。
その場合はリンク接続で使用することをおすすめします。

## ペアリングを行う

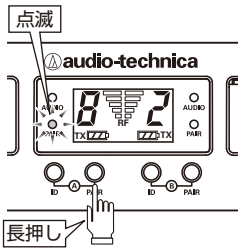
### Ach を設定する場合

①レシーバー本体のシステム ID 切換ボタンを短押しし、任意の ID 番号を表示します。



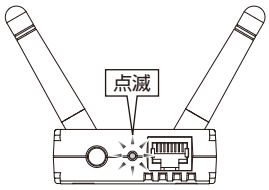

システム ID 表示部が点滅します。

②レシーバー本体のペアリングボタンを長押しします。




受信インジケーターが点滅します。

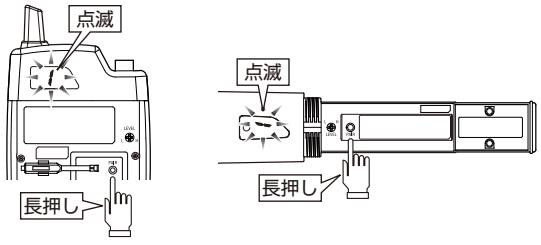
レシーバーユニットを外部設置している場合は、レシーバーユニット背面の電源インジケーターが緑色に急速点滅します。




この状態のときに再度ペアリングボタンを押す、または約 60 秒間放置すると、ペアリング状態が解除されます。

③レシーバー本体の受信インジケーターが点滅している間に、トランスミッターのペアリングボタンを長押しします。

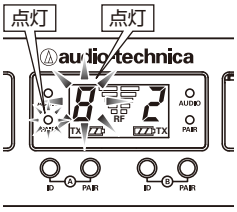
【ATW-T1001J の場合】　【ATW-T1002J の場合】




システム ID 表示部が点滅します。

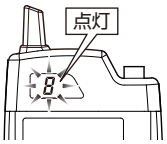
## ペアリングを行う（つづき）

④ペアリング正常終了の場合

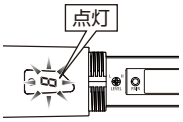



レシーバー本体の
- システム ID 表示部が
  点滅 → 点灯に変わります。
- 受信インジケーターが
  点滅 → 点灯に変わります。

【ATW-T1001J の場合】

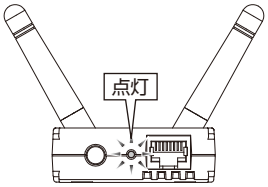



【ATW-T1002J の場合】




システム ID 表示部の ID がレシーバーと一致し、
点滅 → 点灯に変わります。

レシーバーユニットを外部設置している場合は、
レシーバーユニット背面の電源インジケーターが
緑色に点灯します。




⑤「④」の状態にならなかった場合は、もう一度①の
動作からやり直してください。

## Bch を設定する場合

Ach 同様に①から設定してください。

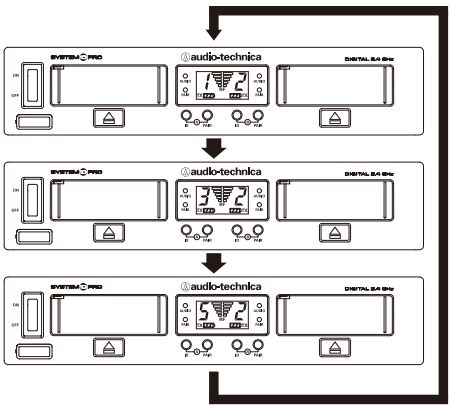
# マルチペアリング機能

本システムは、レシーバー本体の Ach、Bch にそれぞれ最大10 台のトランスミッターを登録することが可能です。
都度ペアリングを行う必要がなく、トランスミッターを切り換えるときに大変便利です。

## ID を登録する場合

①ペアリングを行います。
17 ページ「ペアリングを行う①～④」を参照ください。
異なる ID 番号に登録してください。

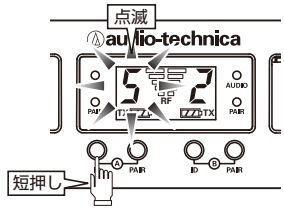
②トランスミッターと通信していないとき、
レシーバー本体のシステム ID 表示部には、登録されている ID のみ順次表示されます。
【例】Ach に ID 1. 3. 5 を登録した場合



※ID を登録するときは、登録するトランスミッター以外のトランスミッターは電源を OFF にしてください。
※１つのトランスミッターを複数の ID に登録することはできません。

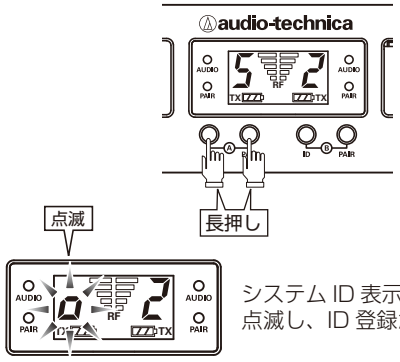
## ID 登録を 1 つ削除する場合

①レシーバー本体のシステム ID 切換ボタンを短押しし、登録を削除したい ID 番号を表示します。




システム ID 表示部が点滅します。

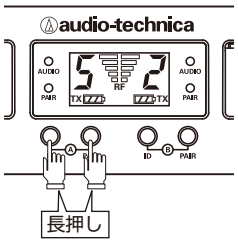
②レシーバー本体のシステム ID 切換ボタンとペアリングボタンを同時に長押しします。

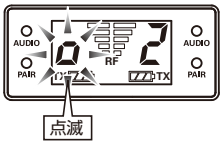



システム ID 表示部に「o」が点滅し、ID 登録が削除されます。

## ID 登録を全て削除する場合

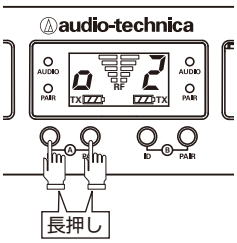
①レシーバー本体のシステム ID 切換ボタンとペアリングボタンを同時に長押しします。

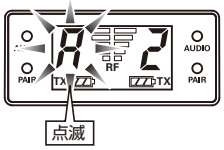


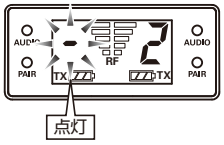

システム ID 表示部に「o」が点滅したら、いったん指を離します。

②システム ID 表示部に「o」が点滅している間に、再度レシーバー本体のシステム ID 切換ボタンとペアリングボタンを同時に長押しします。




システム ID 表示部に「A」が点滅し、すべての ID 登録が削除されます。




その後、システム ID 表示部に「–」( 登録なし ) が点灯します。

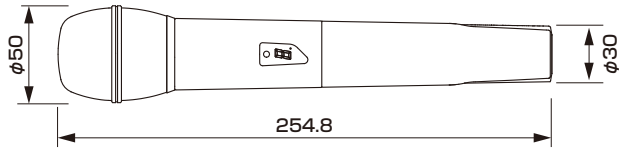
※使用していないトランスミッターの電源は OFF にしてください。
※トランスミッターを切り換えるときは、必ずトランスミッターの電源を OFF にしてください。
電源が ON のまま電池を外したときや、通信範囲外で電源を OFF にしたときは、その他のトランスミッターに切り換わりません。一度レシーバー本体の電源を OFF にしてください。

# 本システムを上手に運用するための10ポイント

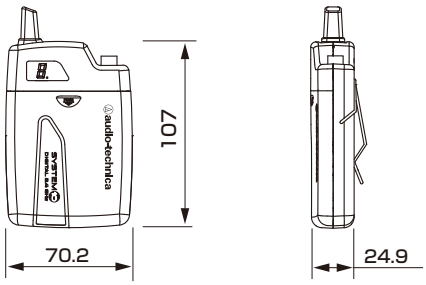
1. トランスミッターを長時間連続でご使用になる場合は、運用する前に新品の電池を準備してください。
2. レシーバーユニットとトランスミッターの間にはできるだけ障害物がないように設置してください。ラックマウント時にアンテナが隠れてしまう場合には、レシーバーユニットを外部接続にしてください。
3. レシーバーユニットとトランスミッターの距離は近くなるように設置してください。
   ※レシーバーユニットとトランスミッターの距離が 2m未満では使用しないでください。
4. ほかのデジタル機器からできるだけ離してください。特に Wi-Fi ルーターなどの 2.4GHz 帯無線機器はレシーバーユニットとトランスミッターから 10m以上離して設置してください。
5. レシーバーユニットのアンテナは、できるだけ金属物から離して設置してください。
6. ギターと合わせて使用する際、ピックアップの種類によって磁気のノイズを受けやすいものがあります。ノイズが出る場合には、トランスミッター本体をギターのピックアップ部から 30cm 以上離して設置してください。
7. トランスミッターの AF レベルボリュームノブを調整し、レシーバー本体のオーディオインジケーターが赤色に点灯しないよう設定してください。
   ※入力が大きすぎると音割れや歪みが発生します。
   入力が小さすぎると S/N が悪くなり、ノイズが発生しやすくなります。
8. 本製品を複数のシステムで同時に使用する場合、リンク接続することをおすすめします。
   リンク接続すると通信の信頼性が向上し、音切れしにくくなります。
9. トランスミッターをご使用にならない場合は電源を切ってください。また、長時間ご使用にならない場合は電池を外してください。
10. レシーバー本体をご使用にならない場合は、電源を切って AC アダプターをコンセントから抜いてください。

# 外形寸法図 (単位：mm)

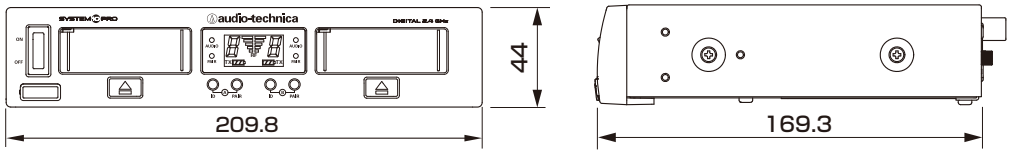
**ATW-T1002J**



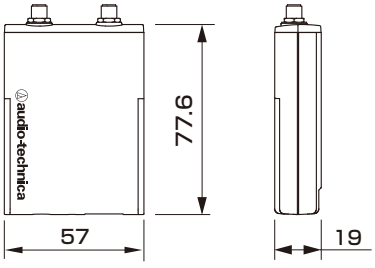

**ATW-T1001J**




**ATW-RC13**




**ATW-RU13**



# 故障かな?と思ったら

## レシーバー本体の電源が入らない

・AC アダプターのプラグが外れていませんか?
→AC アダプターをしっかりと接続して再度電源スイッチを ON にしてください。

10ページの「接続のしかた」を参照ください。

## トランスミッターの電源が入らない

・電池が入っていますか?
→電池を入れてください。
・電池が消耗していませんか?
→新しい電池に交換してください。
・電池が正しい向きに入っていますか?
→電池を正しい向きに入れ直してください。

9ページの「電池の入れかた」を参照ください。

## トランスミッターの電源がすぐ切れてしまう

・電源 LED が点滅していませんか?
→電池が消耗している可能性があります。
新しい電池に交換してください。

9ページの「電池の入れかた」を参照ください。

16ページの「電池交換時期について」を参照ください。

## 音が割れる

・音声が大きすぎませんか?
→レシーバー本体の AF レベルボリュームノブを調整し、出力レベルを小さくしてください。
→トランスミッターの AF レベルボリュームノブを調整し、入力レベルを小さくしてください。

15ページの「入出力レベルを調整する」を参照ください。

## レシーバーとトランスミッターが通信しない

・レシーバー本体とトランスミッターの ID 番号は一致していますか?
→一致する組み合わせで使用してください。
→ペアリングをやり直してください。

17ページの「ペアリングを行う」を参照ください。

・ほかのトランスミッターと通信していませんか?
→使用していないトランスミッターの電源は OFF にしてください。
・トランスミッターを切り換えるとき、正しく電源を OFF にしていますか?
→レシーバー本体の電源を一度 OFF にしてください。

19ページの「マルチペアリング機能」を参照ください。

## ノイズが出る

・レシーバー本体、レシーバーユニットへのケーブル、または機器へのケーブルが確実に接続されていますか?

10ページの「接続のしかた」を参照ください。

・レシーバー本体、レシーバーユニット、またはトランスミッターの近くに蛍光灯や電気機器などのノイズ発生源はありませんか?
→レシーバー本体、レシーバーユニット、またはトランスミッターをノイズ発生源から離してください。
・外部機器をレシーバー本体のバランス出力端子に接続していますか?
→レシーバー本体のグランドリフトスイッチを切り換えてください。

8ページの「各部の名称と機能」を参照ください。

## 音声が出ない、または音声が小さい

・レシーバー本体とトランスミッターの ID 番号は一致していますか?
→一致する組み合わせで使用してください。
→ペアリングをやり直してください。

17ページの「ペアリングを行う」を参照ください。

### ATW-T1001J、ATW-T1002J の確認

・電源が OFF になっていませんか?
→電源を ON にしてください。

15ページの「トランスミッターを準備する」を参照ください。

・電源インジケーターが赤色に点灯していませんか?
→ミュート状態になっています。
ミュートを解除してください。

16ページの「ミュートのしかた」を参照ください。

・AF レベルボリュームノブが最小になっていませんか?
→トランスミッターの AF レベルボリュームノブを調整し、入力レベルを大きくしてください。

15ページの「入出力レベルを調整する」を参照ください。

### ATW-RC13、ATW-RU13 の確認

・接続機器のケーブルが外れていませんか?

10ページの「接続のしかた」を参照ください。

・レシーバー本体の AF レベルボリュームノブが最小になっていませんか?

15ページの「入出力レベルを調整する」を参照ください。

・レシーバー本体の受信インジケーターが点灯していますか?
→ペアリングが完了していない可能性があります。
ペアリングをやり直してください。

17ページの「ペアリングを行う」を参照ください。

### 外部機器の確認

・レシーバー本体からのケーブルが外れていませんか?
・接続機器のボリュームが最小になっていませんか?

# 故障かな?と思ったら

## 音声、通信が途切れる

・レシーバーユニットとトランスミッターが離れすぎていませんか?
→トランスミッターを使用する場所の近くにレシーバーユニットを設置してください。
・ほかの 2.4GHz 機器 ( Wi-Fi ルーターなど ) が近くに置いてありませんか?
→ほかの 2.4GHz 機器を離して、トランスミッターとレシーバーユニットの距離が近くなるように設置してください。
・レシーバーユニットのアンテナは正しく接続されていますか?
→接続が緩んでいないか確認してください。

13ページの「レシーバーユニット設置のしかた」参照ください。

## レシーバー本体の LCD 表示部の ID が表示されない

・レシーバーユニットは正しく接続されていますか?
→正しく接続されていることを確認してください。
外部接続の場合、LAN ケーブルに問題が無いか確認してください。

10ページの「接続のしかた」を参照ください。

## リンク接続時に音声、通信が途切れる

・ほかのレシーバー本体と正しく接続されていますか?
→リンク用ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
・レシーバー本体の電源が入った状態で接続していませんか?
→レシーバー本体の電源が切れた状態で接続してから電源を入れてください

11ページの「接続のしかた」を参照ください。

## 電池残量が表示されない

・すでにお持ちのトランスミッターを使用していませんか?
→ファームウェアのバージョンが古い可能性があります。

当社サービスセンター(修理･部品)までご連絡ください。

## マルチペアリングができない

・すでにお持ちのトランスミッターを使用していませんか?
→ファームウェアのバージョンが古い可能性があります。

当社サービスセンター(修理･部品)までご連絡ください。

## 状態コード一覧

レシーバー本体のLCD表示部に、そのときの状態を表す下記のコードが表示される場合があります。

| コードNo. | 内容 |
|---|---|
| n02 | リンク接続時にこの表示が出たレシーバー本体がマスターレシーバーになったことを表します。 |
| n05 | リンク接続時にこの表示が出たレシーバー本体がスレーブレシーバーになり、同期が完了したことを表します。 |
| n12 | ペアリング中にほかのレシーバー本体がペアリングモードに入っていることを表します。<br>複数のレシーバー本体を同時にペアリングすることはできません。<br>ほかのレシーバー本体がペアリングモードに入っていないときにペアリングしてください。 |

## エラーコード一覧

レシーバー本体のLCD表示部に下記のコードが表示された場合は、コードに合った対処をしてください。

| コードNo. | 内容 | 対処方法 | 参照 |
|---|---|---|---|
| E41 | リンク用ケーブルが正しく接続されていません。または、同じレシーバー本体のリンクIN端子とリンクOUT端子が接続されています。 | リンク用ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 | 11ページ |
| E44 | リンク接続時にレシーバー本体が合計6台以上接続されています。 | リンク接続するレシーバー本体を合計5台までにしてください。 | 11ページ |

# MEMO

# テクニカルデータ

## システム仕様

| | |
|---|---|
| 運用電波帯域 | : 2.4GHz ISM バンド |
| オーディオダイナミックレンジ | : 109dB |
| 歪率 | : 0.05% 以下 |
| 通信距離 | : 60m（レシーバーユニット、トランスミッター間）<br>※見通し時、妨害電波がない場合 |
| 動作温度範囲 | : 0 ～ 40℃ |
| オーディオ周波数特性 | : 20 ～ 20,000Hz |
| オーディオサンプリング | : 24bit ／ 48kHz |
| レイテンシー | : 3.8ms |

## レシーバー本体 ATW-RC13/ レシーバーユニット ATW-RU13

| | |
|---|---|
| 受信方式 | : 自動チャンネル設定方式 |
| 最大オーディオ出力レベル | : 0dBV ( XLR 3 ピンオス、バランス )<br>+6dBV (φ6.3mm モノラルジャック、アンバランス ) |
| 電源 | : DC12V ( 付属の AC アダプター使用、日本国内専用 ) |
| 外形寸法 | : ATW-RC13 H44×W209.8×D169.3mm<br>ATW-RU13 H77.6×W57×D19mm |
| 質量 | : ATW-RC13 約 940g<br>ATW-RU13 約 64g |
| 付属品 (ATW-RC13) | : ラックマウントアダプター ( 長 )、ラックマウントアダプター ( 短 )、<br>ジョイントプレート、ゴム足、リンク用ケーブル、固定用ネジ<br>AC アダプター AD-SE1205A0 |
| 付属品 (ATW-RU13) | : ユニットホルダー ( AT8690 )、アンテナ 2 本、木ネジ |

## 2 ピースタイプトランスミッター　ATW-T1001J

| | |
|---|---|
| 送信出力 | : 10mW |
| 電源 | : DC3V ( 単 3 形アルカリ乾電池 × 2 本 ) |
| 動作時間 | : 約 6 時間 ( 単 3 形アルカリ乾電池使用時 )<br>※使用する電池や使用時の温度により異なります |
| 外形寸法 | : H107×W70.2×D24.9mm ( 突起物除く ) |
| 質量 | : 約 100g ( 電池除く ) |

## マイクロホンタイプトランスミッター　ATW-T1002J

| | |
|---|---|
| 送信出力 | : 10mW |
| 電源 | : DC3V ( 単 3 形アルカリ乾電池 × 2 本 ) |
| 動作時間 | : 約 6 時間 ( 単 3 形アルカリ乾電池使用時 )<br>※使用する電池や使用時の温度により異なります |
| 外形寸法 | : φ50×254.8mm ( ヘッド径 × 全長 ) |
| 質量 | : 約 280g ( 電池除く ) |
| 付属品 | : マイクホルダー ( AT8456a )、変換ネジ ( 3/8－5/8 ) |

( 改良などのため予告なく変更することがあります。)


**お問い合わせ先**(電話受付 / 平日9：00～17：30)
製品の仕様･使いかたや修理･部品のご相談は、販売店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。

**●お客様相談窓口(製品の仕様･使いかた)**　**0120-773-417**
(携帯電話･PHSなどのご利用は　03-6746-0211)
FAX：042-739-9120　Eメール：support@audio-technica.co.jp

**●サービスセンター(修理･部品)**　**0120-887-416**
(携帯電話･PHSなどのご利用は　03-6746-0212)
FAX：042-739-9120　Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp

**●ホームページ(サポート)**
www.audio-technica.co.jp/atj/support/


**修理について**
本製品の修理をご依頼される際は、レシーバー本体、レシーバーユニット、トランスミッターをお預けください。

**アフターサービスについて**
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間･規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。


株式会社 オーディオテクニカ
〒194-8666　東京都町田市西成瀬 2-46-1
http://www.audio-technica.co.jp


232305160